

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地		
関西学研医療福祉 学院	平成16年3月26日	学院長 井坂 恵一	〒631-0805 奈良市右京1-1-5 (電話) 0742-72-0600		
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地		
学校法人 青丹学園	平成10年4月1日	理事長 岡田 憲太郎	〒631-0805 奈良市右京1-1-5 (電話) 0742-72-0600		
目 的	業界が必要とする人材を、人間性を培うとともに、企業と連携して医療・福祉等に関する専門的知識及び技術を修得させ、広く社会に貢献できる理学療法士を養成する。				
課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療専門課程	理学療法学科	3年(昼)	3045単位時間 (又は単位)	専門士	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技
	1890単位時間 (又は単位)	300単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)	855単位時間 (又は単位)	0単位時間 (又は単位)
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人	106人	7人	15人	22人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有) 無) ■成績評価の基準・方法について 各科目ごと各学期に試験を行う A (80点以上) B (70点以上80点未満) 合格 C (60点以上70点未満) D (60点未満) — 不合格	
長期休み	■夏季：5週間 ■冬季：2週間 ■春季：2週間		卒業・進級条件	■卒業条件：3年以上在学し、本学科所定の合計3045時間を修得すること。 ■卒業条件：各学年において履修すべき科目のうち、認定されない科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級、卒業はできない。	

生徒指導	■クラス担任制 (有) 無) ■長期欠席者への指導等の対応 担任及び学科長、保護者による四者 面談、学生相談室	課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア活動 ■サークル活動 (有) 無)
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院、介護老人保健施設 ■就職率※ ¹ 100%	主な資格・検定	理学療法士 (国家資格)
中途退学の現状	■中途退学者 8名 ■中退率 7.54% 平成29年5月1日在学者 106名 平成30年5月1日在学者 106名 ■中途退学の主な理由 経済的理由、病気、進路変更 ■中退防止のための取組 個人面談、学費相談 (分割納入や奨学金等)、保護者面談、補習授業		
ホームページ	https://www.seitan.ac.jp/kg/		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職 (内定) 状況調査」の定義による。

① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除いたものとする。

② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員 (1年以上の非正規の職員として就職した者を含む) として最終的に就職した者 (企業等から採用通知などが出された者) をいう。

③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職 (内定) 状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない (就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

- ・患者様や社会から必要とされ信頼される理学療法士となれるように、業界が必要とする人材を企業との連携等を活かして育成する。
- ・実習修了時には、実習担当者による学生の成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名 前	所 属
上林 弘幸	関西学研医療福祉学院
棚田 勝雄	関西学研医療福祉学院
浅川 数典	関西学研医療福祉学院
山中 善詞	医療法人 社団 岡田会 (リハビリ科：理学療法士)
佐守 友博	日本臨床検査医学会

(開催日時)

第1回 平成26年2月22日 13:30~14:30	第8回 平成29年9月16日~15:00~16:00
第2回 平成26年8月23日 14:40~15:40	第9回 平成29年12月16日 15:00~16:00
第3回 平成26年12月13日 15:00~16:00	
第4回 平成27年9月12日 15:00~16:00	
第5回 平成27年12月19日 15:00~16:00	
第6回 平成28年9月24日 15:00~16:00	
第7回 平成28年12月10日 15:00~16:00	

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

理学療法士養成所指導要綱に基づき、連携する病院・施設での臨床実習を実施。教育課程における位置づけや成績評価基準、意義についても明確にしている。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	理学療法業務の観察と見学を通して、理学療法士の職域を理解する。実習生としての役割と責任を自覚し、社会人としての振る舞いを学習する。また学内で学んだ概念・知識を再確認し、理学療法に必要な基礎医学・専門知識の理解を深め、その重要性を認識する。	医療法人新生会 総合病院 高の原中央病院、財団法人 沢井病院
臨床実習Ⅱ	臨床実習Ⅱ-1 (検査・測定実習) 理学療法の第一歩である検査・測定を体験する。抽象的な臨床像を実際に観察・検査・測定を通して具体的なものとし、学内で履修した理論と技術の臨床的応用を学ぶ。また、リスク管理の重要性を認識することを目的とする。 臨床実習Ⅱ-2 (評価実習) 理学療法評価を体験する。検査・測定技術の理論と技術をより確かなものとし、得られたデータと疾患、障害の知識を関連付け、統合と解釈することにより臨床像を明確にすることを目的とする。	医療法人新生会 総合病院 高の原中央病院、医療法人康仁会 西の京病院、財団法人 沢井病院、奈良県総合リハビリテーションセンター
臨床総合実習Ⅰ	(Ⅰ期・Ⅱ期) 理学療法評価から抽出した問題点に対し、ゴール設定、理学療法プログラム立案を行い模倣的な治療および練習を施行することを目的とする。	医療法人新生会 総合病院 高の原中央病院、財団法人 沢井病院

臨床総合実習Ⅱ	基本的な治療および練習を行い、治療効果の判定、ゴール設定・理学療法プログラムなどの変更を行い、基本的理学療法の実践力修得を目指すことを目的とする。	医療法人社団岡田会 山の辺病院、医療法人康仁会 西の京病院、奈良県総合リハビリテーションセンター、奈良県総合医療センター
---------	---	--

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

本学院の定める「他所への臨床及び講義講演等の規定」において、学外の学校・病院・企業等への参画は奨励しており、その成果を学生教育に活かすことを目的としている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成30年5月1日現在

名 前	所 属
上林 弘幸	関西学研医療福祉学院
棚田 勝雄	関西学研医療福祉学院
澤浦 知子	関西学研医療福祉学院
栗山 康弘	関西学研医療福祉学院
浅川 数典	関西学研医療福祉学院
玉木 啓之	関西学研医療福祉学院
藤島 ルイコ	関西学研医療福祉学院
岡田 哲朗	医療法人 社団 岡田会 (歯科医師)
渋谷 淳子	医療法人 社団 岡田会 (看護師・事業部長)
福田 邦彦	保護者代表
竹中 唯	卒業生代表 (看護師)
安井 誠	地域代表

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <https://www.seitan.ac.jp/kg/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

閲覧 (事務所: 備え付け) とホームページに掲載 (様式4)

URL: <https://www.seitan.ac.jp/kg/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法学科) 平成30度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			心理学	人間理解の基礎知識を得る。性質・欲求等の心理的欲求を分析できる能力を身につける。	1・前	15	1	○			○			○	
○			倫理学	人間として生命の尊厳、守るべき道を学び、医療人としての倫理観を養う。	1・前	15	1	○			○			○	
○			日本語表現法	基本的な日本語表現について学ぶ。さらに論文や症例報告書などに応用する。	1・前	15	1	○			○			○	
○			社会学	人間の社会的共同生活の構造や機能について学ぶ。社会的に医学や医療スタッフの果たしている、役割を知る。	1・前	15	1	○			○			○	
○			教育学	臨床に必要な教育学を学ぶことで心の姿を知る。	1・前	15	1	○			○			○	
○			人間関係論	医療現場のみでなく、人間関係の基礎となるコミュニケーション能力を学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			物理学	現場に役立つ、力学、熱、波と音、光、電磁波等の基礎や、生体と物理学の関わりについて学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			生物学	生物の生命現象、生命維持に必要な生体の働きや生命のメカニズムを知る。	1・前	30	2	○		△	○			○	
○			情報処理学	基礎的なパソコン操作と統計処理、理学療法に必要なデータ編集・構成能力を身につける。	1・前	15	1	△		○	○			○	
○			統計学	理学療法で得たデータの統計処理法、検討方法を学ぶ。	1・後	30	2	△		○	○			○	
○			レクリエーション実技Ⅰ	スポーツを通じて心身の健康を保つ。またレクリエーション活動の方法を学ぶ。	1・前	30	1	△		○	○			○	
○			医学英語	臨床に必要な医学用語、洋書論文の読解力を身につける。	1・後	30	2	○			○			○	

○		解剖学Ⅰ-1	系統解剖学における骨格系、筋系を学ぶ。	1・前	30	2	○			○	○		
○		解剖学Ⅰ-2		1・後	30	2	○			○	○	○	
○		解剖学Ⅱ	系統解剖学における循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を学ぶ。	1・前	60	4	○			○			○
○		解剖学Ⅲ	系統解剖学における神経系、感覚器系を学ぶ。	1・後	60	4	○			○			○
○		生理学Ⅰ	身体内部における植物系機能、動物系機能を学ぶ。	1・前	60	4	○		△	○			○
○		生理学Ⅱ		1・後	60	4	○		△	○			○
○		運動学Ⅰ	解剖学・生理学・物理学を基礎に生体力学、関節運動について学ぶ。	1・前	45	3	○			○			○
○		運動学Ⅱ		1・後	45	3	○			○			○
○		病態運動学	基礎医学の知識のもとに、疾患によりどの様に身体活動が変化するかを学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○
○		運動学実習Ⅰ	人体の運動について知り、体表解剖、動作分析について学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○
○		運動学実習Ⅱ		2・前	45	1	○			○			○
○		人間発達学	正常な人間の発達過程、身体面、精神面、社会面を学ぶ。	1・後	15	1	○			○			○
○		病理学概論	病気の原因と成り立ちを学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○
○		臨床心理学	人と専門的に接する技能を身につけ、心理学的な問題点の把握と援助法を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○
○		一般臨床医学	臨床医学にたずさわるために必要な基礎知識を全般的に学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○
○		内科学	内科の症候、病態生理への理解を深め、診断及び最新の治療法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○

○	老年学	加齢に伴う症候を知り、高齢者医療と専門分野での評価・治療に結びつける。	2・後	30	2	○				○				○
○	整形外科Ⅰ	整形外科の疾患を学び、専門分野での評価・治療に結びつける。X線等や手術等の治療法を知る。	2・前	30	2	○				○				○
○	整形外科Ⅱ		2・後	30	2	○				○				○
○	神経科学Ⅰ	中枢・末梢性神経疾患の病態と診断・治療法を学び、専門分野での評価・治療に結びつける。	2・前	30	2	○				○				○
○	神経科学Ⅱ		2・後	30	2	○				○				○
○	精神医学	精神疾患の病態と診断・治療法を学び、専門分野での評価に結びつける。	2・後	30	2	○				○				○
○	小児科学	小児疾患の病態と診断・治療法を学び、専門分野での評価・治療に結びつける。	1・後	15	1	○				○				○
○	リハビリテーション概論	リハビリテーションの社会・医療との関わりを理解し、障害論の基礎を学ぶ。	1・前	30	2	○		△		○				○
○	公衆衛生学	地域理学療法を進める上で、必要な公衆衛生の基礎を学ぶ。	1・前	15	1	○				○				○
○	理学療法学概論	理学療法学の全体を把握する。保健・医療・福祉における理学療法について学ぶ。	1・前	30	2	○				○				○
○	運動療法学概論	運動療法の歴史・定義・目的と基本理念を理解し、基礎技術を習得する。	1・後	15	1	○				○				○
○	物理療法学概論	物理療法の歴史と臨床的意義を理解し、各論への導入をする。	1・前	15	1	○		△		○				○
○	臨床運動学	姿勢・動作の観察と分析を行い、正常な運動を阻害する因子とその影響を理解する。	2・後	30	2	○				○				○
○	理学療法評価学Ⅰ	理学療法における評価の概念を理解する。関節可動域測定・形態測定・血液測定の意義・目的と実技について学ぶ。	1・後	30	1	○		△		○				○
○	理学療法評価学Ⅱ	徒手筋力検査法の意義・目的と実技について学ぶ。	1・後	45	1	○		△		○				○
○	理学療法評価学Ⅲ	神経系の検査・測定の意義・目的と実技について学ぶ。	2・前	60	2	○		△		○				○

○		理学療法評価学Ⅳ	内部疾患の検査・測定の意味・目的と実技について学ぶ。	2・前	30	1	○		△	○				○
○		物理療法学	物理療法の生体への影響、特徴、適応と禁忌、使用方法を実技を交えて学習する。	1・後	45	3	○		△	○			○	
○		義肢学	義肢義足及び切断者のリハビリテーションについて学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○				○
○		装具学	上肢装具、下肢装具、自助具について学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○				○
○		日常生活活動学Ⅰ	日常生活動作を理解し、各障害との関連・評価・指導法を学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○			○	
○		日常生活活動学Ⅱ		2・後	45	1	○		△	○			○	
○		運動療法学	関節可動域改善、筋力増強、持久性改善、協調性改善などの目的に合う運動療法の基礎を修得する。	2・前	60	2	○		△	○			○	
○		理学療法治療学Ⅰ(運動疾患・含むスポーツ障害)	整形外科疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	60	4	○		△	○				○
○		理学療法治療学Ⅱ(呼吸障害)	呼吸障害の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○				○
○		理学療法治療学Ⅲ(循環・代謝障害)	循環・代謝障害の障害理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	15	1	○		△	○				○
○		理学療法治療学Ⅳ(脳血管障害)	脳血管障害の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	60	4	○		△	○				○
○		理学療法治療学Ⅴ(難病・神経疾患)	難病・神経疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○				○
○		理学療法治療学Ⅵ(小児疾患)	小児疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○			○	
○		理学療法総合演習Ⅰ	臨床実習に向けて臨想的思考過程や動作観察の文章表現、レポート作成及び実技を行う。	2・前	60	2	△	○		○			○	
○		理学療法総合演習Ⅱ		2・後	60	2	△	○		○			○	
○		理学療法総合演習Ⅲ		3・後	180	6	△	○		○			○	

○	地域理学療法学	現在の保健・医療・福祉制度について理解し、在宅支援するための基礎知識を学ぶ。	2・前	15	1	○				○									
○	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの概念と、その方法、業務について理解する。	2・前	15	1	○				○									○
○	生活環境学	障害と住環境、福祉機器、介助法の関わりと実際を理解する。	2・前	30	2	○				○			○						
○	臨床実習Ⅰ	理学療法業務を観察し、必要な資質と能力を考える。	1・後	45	1					○			○						○
○	臨床実習Ⅱ (検査・測定)(評価)	学校で学んだことを土台に臨床の場で、評価および記録と報告を実践する。	2・後	180	4					○			○						○
○	臨床総合実習Ⅰ	学校で学んだことを土台に臨床の場で、評価、分析、治療実践を行う。知識・技術・態度の全体的向上を図る。	3・前	315	7					○			○						○
○	臨床総合実習Ⅱ		3・後	315	7					○			○						○
○	障害者スポーツ論	障害者スポーツの概要と実際について学び、実技としてはレクリエーションを重視してとり組む。	1・後	15	1	△				○									○
○	レクリエーション概論	レクリエーション活動を通してレクリエーションの意義・役割を理解する。(レクリエーションインストラクター資格取得可)	1・後	15	1	△				○									○
○	レクリエーション実技Ⅱ		2・前	30	1	△				○									○
合計				70科目		3045単位時間(144単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
		1 学年の学期区分	2期
		1 学期の授業期間	17週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。